ウジエスーパー ウジエクリーンサービス

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 内閣総理大臣賞受賞

後列左から、藤原幸悦さん、西條祐司さん、小山暉人さん
前列左から、大場一弥さん、伊藤勉さん

2015年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰式（リデュース・リユース・リサイクル推進協議会主催・経済産業省など関係7省が後援）で、ウジエスーパー、ウジエクリーンサービス（以下、クリーンサービス）が最高賞の内閣総理大臣を受賞した。

これは、ごみの発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）に率先して取り組み、顕著な実績を挙げている個人や団体に贈られる。昨年度の低炭素杯2014環境大臣賞グランプリに続いて、2年連続で日本一に輝いた。

クリーンサービスの千葉大喜さん（迫町）は「自分たちの仕事が日本一に認められてうれしいです」と笑顔で喜びを語る。この言葉に、他の社員たちも笑顔でうなずいた。

両社の受賞は「エコーガニックWithノーマライゼーション」と名づけた環境ループ事業の取り組みを評価されてのこと。

クリーンサービスは、ウジエスーパーで毎日発生する野菜や果物の廃棄物を、有機質肥料に加工している。そして、市内の農家と連携して、この肥料を使用しコメや野菜などを作付け。そのコメで高品質な味噌を作り、商品化するなど、廃棄物を付加価値のより高いものに変える食品リサイクルのループを構築した。リサイクル・ループは農林水産大臣認定を受けており、食品リサイクル率は65・2パーセント（13年度）を達成した。

作られたコメや野菜、味噌は全てウジエスーパーが買い取り、ウジエオリジナルブランド商品として販売。リサイクル・ループを持続させている。地元の農家・企業と一体での取り組みを通じて地域活性化に貢献。これらを障がい者と共に活動することで、ノーマライゼーションを推進している。これが「エコーガニックWithノーマライゼーション」だ。

氏家良典社長は「元々、障害者雇用とともに分別リサイクルへ取り組み、営業活動での廃棄物を減らす努力をしていました。これよりも環境に優しい廃棄物処理法はないかと調べた結果、現在使用している有機質肥料を作る装置と出会いました」「この装置は、24時間で野菜と果物の廃棄物を完熟発酵させられます。作業工程が①生ごみを入れる②出来上がった肥料を取り出す―と簡素化されていて、障害があっても作業しやすいものでした」と取り組みの鍵となる装置導入を振り返る。

クリーンサービスは今から約11年前に設立された。「それまで、廃棄物処理や清掃業務は外注。それでは経費削減につながりません。経費を削減しつつ、地域に還元できるということで設立しました。地域へは、より多くの社員を登米地域から採用することが還元と考えました。クリーンサービスは、障がい者を雇用し、スーパーのベテラン社員が次に働く場にもなっています」と氏家社長。

エコーガニックの肝となる肥料を作るのは障がい者、その指導に当たるのは、スーパーを定年退職した藤原幸悦さん（迫町）。全員正社員として雇用されている。

肥料ができるまでの作業は、全て彼らが担当。廃棄物を仙台の店舗などから、収集車で運搬し、廃棄物を装置で肥料にする。肥料は契約農家に配られるほか、コメや野菜、ハーブなどを栽培する自社農園で使用される。自社農園の作業も、彼らが担当している。決して楽な作業ではない。

取材当日、作業をしていた大場一弥さん（迫町）は「仕事だから疲れるし、大変だけど楽しいです」と弱音どころか喜びを表す。

「彼らの仕事ぶりは実直でひたむき。業務指導をしていますが、逆に教えられています。仕事は彼らのように取り組むべきだと」と彼らを評価する藤原さん。

もう一人、彼らを影で支える存在がいる。クリーンサービス経営企画室で、ディレクターを務める菅原亜希子さん（迫町）。東北でも数人しかいない「第2号職場適応援助者」の資格を取得し、ジョブコーチとして彼らを支えている。

菅原さんは「ウジエグループの目標は『食を通して社会貢献する』ことです。食を通しての社会貢献にはいろいろなカタチがあります。彼らと共に、地域へ恩返しできるのはありがたいことです」と笑みを浮かべる。

氏家社長は「この取り組みは登米地域だからできたこと。人とのつながりを大切にし、登米市をよりよい地域にしたいと願う農家や企業の皆さんの協力が、今回の結果につながっています」と感謝の意を表す。

クリーンサービスの社員たちは「僕たちは、毎日仕事ができることに感謝しています。毎日仕事ができるのは、お客さんが来てくれるから。だから、登米市の人たちに感謝しています」とにっこり。

エコーガニックに使われる肥料の名は「無限」。その名のとおり「無限」にリサイクルできるようにとの思いを込め名づけられた。

感謝の気持ちが連鎖するこの取り組みの可能性は、無限に広がっていく。

㈱ウジエスーパー
1947（昭和22）年12月、迫町佐沼字的場で創業。青果の卸売りと食品小売店舗からスタートした。ウジエスーパーのロゴマークはリンゴがかたどられている。これは創業当初、リンゴなど青果の卸売りから始まった「初心を忘れない」という意味が込められている。現在は市内だけではなく、仙台市や石巻市などにも出店し、30店舗を数える。

㈱ウジエクリーンンサービス
2006（平成18）年3月、宮城県で4社目の「障害者特例子会社」として設立。現在、障害者を28人雇用し、法定雇用率2.0パーセントを大きく上回る2.38パーセントを達成している。業務は、ウジエスーパーの産業廃棄物の収集や清掃などを展開している。